

# News & Scope Handai Hospital

## 阪大病院ニュース

### 第40号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

# 一日も早い退院を目指して

リハビリテーション(リハ)は医療の脇役ではなく、主役になりつつあります。阪大病院リハビリテーション部は各診療科と連携して、それぞれの患者さんに合ったオーダーメイドのリハを行い、患者さんの術後の治療を早く、後遺症を軽減して生活の質を上げ、早期退院ができるようにしています。

## 後遺症軽減や治療効果向上へ 患者さんに最適のリハを提供

### リハビリテーション部

リハビリテーション部は患者さんに医学的リハの専門知識や技術を疾患別に適切に提供しています。脳卒中には脳血管疾患リハ、心疾患には心臓リハ、骨

折や靭帯の損傷などには運動器リハ、肺疾患には呼吸器リハのように病態に応じて、後遺症の軽減や治療効果をアップさせるような専門的なリハを行っています。特に心臓リハは心不全の患者さんの運動能力をアップさせ、心臓手術の術後の回復を促



心臓リハ室での運動療法



作業療法士による上肢機能訓練



理学療法士による機能回復運動

言語聴覚士による言語機能訓練

進める効果が医学的にも証明されており、循環器内科や心臓血管外科と連携し、心臓リハ室を設けて積極的に実施しています。専従の理学療法士が看護師と協力して患者さんの体調をモニターしながら、それぞれの患者さんに

適したリハを提供しています。また、阪大病院リハ部の特徴として心臓移植など移植患者さんの早期社会復帰に向けてのリハが重要な役割を果たしています。さらに、重症のがん患者さんにも症状に応じたリハ「がんリハ」を実施できるように現在準備を進めています。脚の骨

肉腫などの術後には体調に応じた運動器リハで、できるだけ元通りの動きができるようにしています。ベッドから起き上がれない長期臥床の患者さんは廃用性症候群と言って、筋肉が衰えてしまい、動けなくなってしまう。筋力の衰えを防ぎ、治療が終わってからもすぐに自由に動けるように病室でのリハも行っています。

脳卒中は早期に脳卒中の治療後のリハはできるだけ早期に行うことで手足の廃用性症候群を最小限に抑え、後遺症も軽くなる。医学的に認められており、リハ室まで来られない患者さんには病室に向いてのリハも積極的に取り組んでいます。また、脳卒中で失語症や構音障害になることもあり、言語聴覚士が

患者さんと1対1で言葉を取り戻す訓練もしています。リハ部では、退院を予定している患者さんの支援も行っています。帰宅後に食事、入浴や寝具の上げ下ろしなど日常生活に困らないように、残された機能を

いかにうまく使うかを作業療法士が指導しています。また、患者さんが帰宅後もリハを継続できるようにアドバースも行っています。さらに、保健医療福祉ネットワーク部と連携して福祉、介護サービス利用などの情報提供もしています。阪大病院には脳卒中

## “現代病” 睡眠障害に立ち向かう

### 糖尿病などとの関連も明らかに



終夜睡眠ポリグラフ検査の準備

睡眠医療センターが発足して4年になります。「各科の診療活動を生かした総合型睡眠医療を提供する」をモットーに各診療科と協力しながら睡眠に関する診断、治療、研究を行ってきました。

睡眠障害と糖尿病などとの関連が明らかになり、外来での診療も年間100件近くにのぼっています。センターではこの4年間に、睡眠時無呼吸症候群をはじめ、ナルコレプシーなどの過眠症、睡眠リズムが狂ってしまう概日リズム睡眠障害、レム睡眠行動異常症や下肢静止不能症候群など多様な睡眠障害を外来で診てきま

た。入院患者さんに関しても、糖尿病やパーキンソン病などの基礎疾患のある患者さんの睡眠障害の診断、治療を行っています。

睡眠障害を診断するには終夜睡眠ポリグラフ検査(終夜PSG)が不可欠です。患者さんの脳波や呼吸、心拍数を1泊2日で調べて、睡眠の質を診るの

です。センターには検査の専門家があり、検査室も2室あります。また、小児科では小児専門の検査ができるようになってきています。睡眠障害の検査は検査機器に任せるだけでなく、常時、患者さんの様子を見ながら行わないと正確さに欠けるので、検査する側もほとんど徹夜になってしまいます。睡眠障害が増目され患者さんが増

えています。検査技師が少ないため、なかなか患者さんの要請に応えることができない状態が続いています。そうした中でも、阪大病院での入院患者さんの検査や治療の実績から睡眠障害と生活習慣病の関連が明らかになってきたことがあります。糖尿病を合併する睡眠障害の患者さんは糖尿病を悪化させる因子であるインスリン抵抗性が上昇するなどしていることがわかってきました。センターが単なる睡眠障害の治療だけでなく、睡眠障害が健康に及ぼす影響までを解明する役割を担っていることが証明されています。

また、多くの睡眠障害の患者さんの要請に応えるためにも、終夜PSGのできる検査技師を増やすなどスタッフの充実も不可欠です。「眠らない社会」といわれる現代で睡眠障害はますます社会的問題となってくると思われま

ます。センターの果たす役割が大きくなっていくことが予想され、より充実した力を入れていかなければならないと考えています。

新薬の治療 また、睡眠障害を治療する新薬の治療にも協力してきました。これまでの中枢神経に作用する薬ではなく、睡眠に関するホルモン、メラトニンがより効果的に作用するようにする新薬で、依存性などの副作用が少なく、これからの睡眠導入剤として期待されています。これからの第一の課題は、各診療科の医師、看護師らに睡眠の重要性を認識してもらえ

るようにすることです。栄養マネジメント部が患者さんの栄養管理をし、医師らに栄養の大切さを認識してもらっているように、睡眠に関しても、センターを中心に「睡眠マネジメント部」のような組織を作り、入院患者さんの睡眠の質を検査し、管理することで、治療の効果をアップすることができるとは考えています。

増える社会的要請



### だれもが救命処置をできるように 阪大病院PUSH講習会スタート



救急の日の9月9日、阪大病院に勤務する医師・看護師以外の職員を対象にAED(自動体外式除細動器)を用いた救命処置を学ぶPUSH講習会がスタートしました。

初回は、事務職、警備職、ボランティアら33人が参加しました。突然の心停止から救命するためには、現場に居合わせた人による素早い胸骨圧迫(心臓マッサージ)とAEDを用いた電気ショックが重要です。病院では、外来、入院患者さんを問わず救命処置が必要なので、AEDの設置とあわせ、病院スタッフが誰でも対応できる環境を整えていく必要があります。

PUSHとは「胸を押す(胸骨圧迫)」と「AEDのボタンを押す」「自分を一步前へ押し出す」の意味で名付けられています。今後、講習会を定期的に開催し、さらに安全な病院づくりを目指します。

### 寄席であふれる笑い 薫風亭二人会

秋のミニコンサートが10月8日に行われました。今回は趣向を変えて、アマチュア落語家による薫風亭二人会という寄席を行いました。出演者はお囃子(はやし)とともに高座にのぼり、軽快な小咄(こばなし)に患者さんやご家族らの笑いがあふれていました。



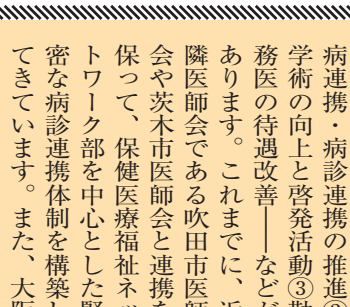
笑いは病気の治癒を促進するという研究報告があります。患者の皆さんが一日も早く退院されることを願ってこれからもいろいろな催しを行っていきたくと考えております。

### iPS細胞の心筋シートにびっくり 一般市民招いて病院見学会

病院見学会を10月1日に実施しました。病院の概要説明を行った後、見学に出発。未来医療センターでは、今話題になっているiPS細胞から作られた心筋シートが拍動している様子を見学し、参加者全員が、「すごい!」と目撃のモニター画面に見入っていました。大学の附属病院であるため、最先端の研究現場を見ることができると好評です。

天候に恵まれドクターヘリも見学できました。ヘリの中には人命救助のための装備がたくさんあり、テレビでドクターヘリが話題になったこともあり、参加者はフライトドクターやフライトナースにいろいろと質問していました。

また、今回はサブライセンターのベッド洗浄室も訪れ、ベッドもマットレスも丸ごと洗浄されているのを見て、「ベッドやマットレスが洗われているなんて知らなかった。気持ちがいいですね」と驚いていました。



大阪大学医学部医師会(真下節会長)は、大阪府医師会傘下の郡市区等医師会の一つの独立した医師会として、大阪府医師会や近隣の医師会と連携を保ちながら、医療・医学に貢献すべく独自の活動を行っています。

特に阪大医師会の貢献が期待されているのは、①病病連携・病診連携の推進②学術の向上と啓発活動③勤務医の待遇改善——などがあります。これまでに、近隣医師会である吹田市医師会や茨木市医師会と連携を保って、保健医療福祉ネットワーク部を中心とした緊密な病診連携体制を構築してきています。また、大阪府医師会には長年にわたって阪大医師会から副会長を推薦し、学術的分野で大きく貢献してきています。さらに、勤務医が安心して医療に従事できる環境を作るために、大阪府医師会勤務医部会における活動を強化しております。

### 病診連携や学術向上に

阪大医師会

## 大きな貢献

大阪大学在籍の医師を結集することによって阪大医師会を強化し、社会に対する貢献をさらに高めることが重要な課題となっております。大阪大学に在籍している教員、医員、大学院生、研究生、研修医のすべての医師が阪大医師会に加入することを望んでいます。

# 多彩な患者さんが がんの補助療法なども 発足5年 増える受診者

## 漢方医学科

阪大病院の漢方医学科がスタートして5年になります。西洋医学的医療だけではなかなかよくならない患者さんを中心に受診者は増えています。スタッフも増え、診療日も毎

日となり、患者さんに満足していただける診療を行っています。漢方医学科で診る病気があらゆる診療科にまたがっています。疾患ごとで見ると、冷え性や食細りなど体質の問題が多いです。次いで、しびれや痛み、女性特有の更年期障害や月経困難症、自律神経失調症やうつ、不安などの精神症状、アトピー性皮膚炎など多岐にわたっています。

特徴としては、がんの補助療法としての漢方処方があります。漢

冷え性患者さん  
臨床研究で募集  
これから冬に向かい冷え性の患者さんが増えてきます。冷え性は西洋医学的な検査では

異常がなく、原因がよくわからず治療が難しいといわれています。漢方医学科では冷え性の患者さんが多いところから、漢方によって改善することができな

いかと昨年から臨床的に研究をしています。しもやけ治療に使う血流をよくする漢方薬を末端が冷えるタイプの冷え性の患者さんに処方しました。冷たい水に30秒間手を漬けてもらい、10分後の血流の回復具合をサーモグラフィで調べたところ、この薬を飲んだ患者さんのほうが、飲ま

回復が早いことがわかりました。この漢方薬が冷え性に効果があることが示唆されています。今年も同様の臨床的な研究をしますので、参加していただける患者さんを募集しています。漢方医学科は完全予約制をとっています。

診察には患者さんの話を十分聴く必要があり、カウンセリング的な効果も期待できるからです。西洋医学的な治療でよくならない患者さんは予約して受診してください。なお、阪大病院通院中の方は主治医にご相談を、阪大以外の医療機関の方は主治医から保健医療福祉ネットワーク部にご連絡ください。

材料部はリユースができる医療器具や内視鏡の洗浄や滅菌と注射器などデイスボーズ(使い捨て)材料の供給と管理をしています。外来や病棟で使われるリユースできる医療器具の種類はそれほど多くありませんが、手術で使われるリユース器具は1回の手術で50種類以上にもなります。年間9000件近くの手術をしているので、洗浄、滅菌する医療器具の数は膨大な量にのぼります。

洗浄は医療器具から血液などの汚物を洗って除去することです。はさみや鉗子などは比較的洗いやすいので食器洗浄機のような洗浄装置を用いて洗浄し、90度以上の高温水ですすぎと消毒を行い、乾燥させます。また、汚れの取れにくい器具は超音波洗浄をします。眼科の手術などに使

用するマイクロサージヤリ用の器具は非常に細かくて繊細なものがああります。一つ一つ壊さないように丁寧に手洗いをします。滅菌は、感染症予防のために器具についているすべての細菌やウイルスを死滅または除去することです。患者さんの受けるリスクと器具の材質によって滅菌の方法が違います。高温、高圧で滅菌する高圧蒸気滅菌。猛毒のガス、酸化エチレンガスによる滅菌は低温でできますが、ガスが器具に残らないよう、滅菌後にガスがなくなる

まで空気洗浄します。正しく滅菌が行われたかどうかは肉眼では判断できません。そのため、インジケータという道具を滅菌する医療器具と一緒に入れておき、その色の変化を観察して判断を行います。インジケータには、標準となる微生物を用いた生物学的インジケータと、温度や時間によって色が変化する化学物質を利用したものがあります。洗浄、滅菌された器具は外来、病棟、手術部からのオーダーに応じてパッキングされ清潔な状態で必要部署

に併用することもあります。漢方薬でがんの治療もたすために処方することもあります。このほかに膠原病患者さんには併用すること、治療薬のステロイドの量を減らすことができます。

癒までは困難ですが、ターミナルケアにおいて患者さんの安心感を高めるために処方することもあります。

膨大な量の器具を洗浄、滅菌

材料部

医療の安全を支える重要部門

膨大な量の器具を洗浄、滅菌

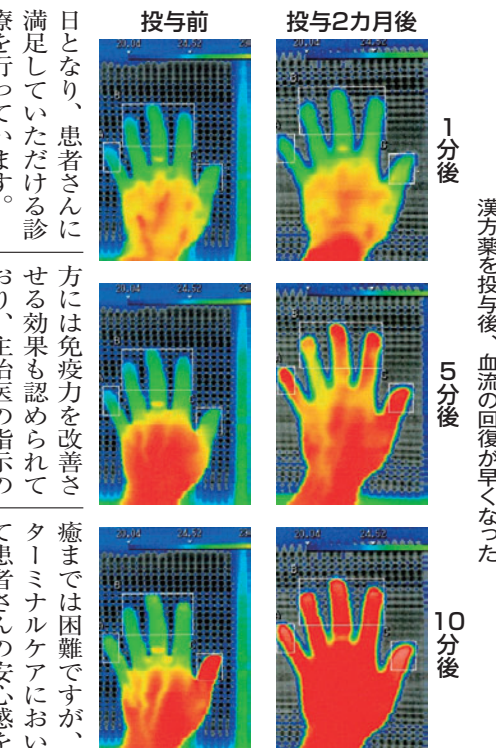
材料部

医療の安全を支える重要部門

膨大な量の器具を洗浄、滅菌

材料部

医療の安全を支える重要部門



膨大な量の器具を洗浄、滅菌

材料部

医療の安全を支える重要部門

材料部

医療の安全を支える重要部門

膨大な量の器具を洗浄、滅菌

材料部

医療の安全を支える重要部門

ホスピタルミニニュース